

開催意義

- 万博の大阪開催は、2020年オリンピック後の経済成長の維持発展と大阪が東西二極の一極として我が国の成長を牽引する新たな戦略、装置
- 万博を起爆剤に、大阪が有するポテンシャルを活かした産業の創出・革新、都市魅力の発信強化、都市基盤の形成により、人類の課題解決に挑戦する最先端都市としての地位を確立

検討会議について

平成28年6月「2025年万博基本構想検討会議」を設置

- 座長：秋山弘子氏（東京大学高齢社会総合研究機構特任教授）
- 委員：有識者（保健、医療、スポーツ、観光、万博関係、都市計画 など）、行政、経済界から26名
- 部会：理念・事業展開部会 と 整備等部会
- 開催実績：全体会議2回、理念・事業展開部会2回、整備等部会2回

検討会議で現在検討中の内容

※現時点での検討内容を踏まえ、今後さらに検討・検証していく必要がある。

テーマ

人類の健康・長寿への挑戦

- ・大阪から長寿時代の新しい生き方、新しい社会のあり方を世界に発信
- ・次世代につながるシームレスな健康づくり
- ・若者への明るい未来のメッセージの発信 などを目指す

開催期間

2025年4月～10月(6か月)

➡ 今後、大阪の魅力発信につながる時期、気候などを考慮して決定

参加国等・目標入場者数

150か国・機関、3000万人以上

事業展開等

「参加・体験」によって、人類の健康・長寿への挑戦に向けた行動を呼びおこす交流の舞台

- ➡ 今後、下記の視点も含め、さらに議論を深める
- ・博覧会を社会実験と捉え、新しい技術や取り組みを実装
- ・先端医療、AI、ロボットなどによる未来への希望
- ・国際社会へのアピール
- ・食、笑い、スポーツ、アンチエイジングなど健康につながる展開
- ・関西全域での連携の視点

主な会場候補

夢洲バイエリアを第一候補として検討

※埋立て、交通アクセス、経費などの技術的課題について、現在検討中

今後、まちづくりの観点、交通アクセス、環境への配慮、経費等を踏まえ、会場候補地を決定する



事業費【精査中】

- 会場建設費 1,500～1,600億円程度
(国庫支出金、地方公共団体補助金、民間拠出金を想定)
- 運営費 800億円程度 (原則、入場料収入等の財源で賅う)

➡ 今後、検討会議を数回開催し、今秋を目処に基本構想府案をとりまとめる予定

万博開催地決定までの流れ



